

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773100827		
法人名	医療法人 清翠会		
事業所名	まきグループホーム 2階フロア		
所在地	大阪府大阪市旭区生江2丁目14番24号		
自己評価作成日	平成22年1月12日	評価結果市町村受理日	平成22年6月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

気分転換や季節を感じて頂く為に外出に行っている。車椅子利用の入居者様も老健から大型車をお借りして参加して頂いている。また地域住民の方とも近隣の小学校で開催される「ふれあい喫茶」や盆踊り、幼稚園の運動会に招待いただきふれあう機会を持って頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に「保健、医療、福祉を通じて地域の皆様の健康で豊かな生活を支援します」を掲げており品質目標にも組み入れ毎朝読み上げ意識の向上に努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回、近くの小学校で行われている「ふれあい祭り」に入居者様に参加して頂き、地域の方ともお話する機会がある。他の小学校で行われた盆踊りにも参加され大変喜んでいただいた		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の方に家族会や行事に参加して頂いたり、交流を通して理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に地域の自治会長様や民生委員の方に地域の情報をいただき、家族様には面会の時の過ごす場所についてご意見をいただき、ご希望に添えるように取り組んでいる		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度最初の運営推進会議の時、介護保健課の職員の方へ出席依頼をしたが昨年と担当者が変わっておられ一度も出席して頂けていない		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や、高齢者虐待について所内研修を行っている。事例検討でグループワークを行い多くの意見を出し合いグループ毎に発表している。出席できなかった職員には資料、発表内容をまとめ回覧し全職員が周知徹底出来るようにしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については所内研修を行い事例でグループワークを行い意見を出しやすいように取り組んでいる。参加出来なかった職員には資料を回覧し必ず読むよう指導している。		

まきグループホーム(2階フロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については所内研修で学び参加出来なかった職員には資料を回覧しているが現入居者で利用されている方はおられるが新たな利用者がおられず手続きの方法は理解できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書は事前に読んで頂けるよう早めに渡し締結時に質問して頂けるよう配慮している。改定時は主任や管理者が直接手渡し説明を行い疑問点をお聞き返答している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回家族会を行い、その際アンケートを行っている。参加されなかった家族様へは郵送し無記名で返送して頂いている。質問等についてはアンケート結果と共に回答欄に記入をして家族様へ郵送している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回運営会議を開催し主任、事務長も出席している。現場の意見をまとめ提議している、議事録は施設長も閲覧している。検討事項は管理会議(月1回)の場で話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回のマネジメントレビューで目標の達成度に関して運営者と主任が面談を行い努力を評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の接遇研修や中堅研修、管理職については行っている。事業所毎に勉強会や研修を行い自由に参加できる。当施設では毎月1回研修を行っている。認知症実践者研修は少しずつ参加が増加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市のグループホームネットワークに加入しており勉強会にも出席し他の区のグループホームの職員や管理者とも相談や交流を図る事が出来た。		

まきグループホーム(2階フロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学に来ていただきクリスマス会に参加して頂いたり、他の入居者や職員と話をする機会を作り雰囲気を感じて頂いたりしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学に来られた時に家族様とお話をして不安な事や質問があればお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状でグループホームの「出来ること、出来ないこと」をはっきり説明している。利用者の現状をしっかりと伺い、他のサービスへの促しや紹介なども行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な家事や炊事を一緒に行い教えて頂いたり、昔の話を伺いながら懐かしみを持って楽しんで頂けるよう努めコミュニケーションの場としても活用している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン作成、変更時前に家族様の思いをお聞きしたり、作成後は説明を行い一緒に支えて行く関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所された後にご近所の方が訪ねてこられたらゆっくりと過ごして頂けるような環境を調整している。よくお買い物に行かれていた商店街にも出かけて頂くようにしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者様の発する言動に気を配り、話の流れを調整、仲介しクッション的な役割をしている。利用者同士が不安な事を話されたり解決したりされている時は見守りしている。行事やレクレーションをキッカケの場として活用している。		

まきグループホーム(2階フロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者、主任が退居された後も入院先に面会に行ったり、家族様からも連絡があったり相談に乗れるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の過去の生活習慣や言動などから把握に努めているが判断が難しい事が多い。可能な限り本人様の意に添うよう職員同士意見の交換をし検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様の情報をもとにして利用者様ともコミュニケーションを取る事により発言内容から情報を収集しサービス提供に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人一人のペースを大切に過ごして頂くように心掛けている。しかしケアに追われ支援出来ていない時もある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に、カンファレンスノートや個別のコメントシートに記入されている意見について話し合い、ケアプランを見直し作成している。その際は家人様の意見も取り入れている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録を行っている。個別の介護日誌、活動記録表をつけている。参考資料の一部にして介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の体調の変化時、家族様同行で受診が困難な時は管理者、職員が対応している。結果はすぐに報告している。入院時は家族様に手続きをお願いしている。		

まきグループホーム(2階フロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の方には救急対応や避難訓練、警察の方には防犯について家族会で話をし、頂いたりお世話になっている。地域の幼稚園や、学校での催しに参加したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム長が医師であり、2週間に1回訪問診療を実施している。かかりつけ医を希望される場合は要望にお応えし、ホーム長が情報提供書を作成している。眼科・皮膚科・耳鼻科などは適宜訪問診療が可能である。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者を看護師としているので、管理者経由で医療的な事は管理している。訪問看護師によるサービスも適時導入したり相談したりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療法人なので病院があり、病院の相談員と連携したり、病棟の師長等と連絡を取り合って連携を計っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用基準としては経口摂取が可能な状態としており、状態により主治医、家族、スタッフと話し合う機会を設けている。訪問看護師による点滴も施行可能で、改善の見込みがあれば、生活継続出来るように対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	所内研修も何度も行い、ADEを実際に使用しての訓練も行っている。消防署の職員指導で心肺蘇生の講習も受けている。救急車の呼び方も事例をあげ練習し参加出来なかった職員にも回覧しフォローしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回マニュアルに沿って消防訓練(通報・避難・消火)を実施しており(1回は消防署職員の立会い)水消火器を借用し方法についても実践している。自治会長様や民生委員の方にも訓練の見学に来て頂いている		

まきグループホーム(2階フロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お部屋でゆっくりと過ごされている時はその時間を大切にしている。入室時は必ずノックをしている。体操などのレクリエーションにはご本人の意志の尊重をしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の表情や行動、会話より希望を確認し伺っている。意思決定が困難な方には「はい、いいえ」で答えて頂けるように質問するよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にゆっくり過ごして頂くように心掛けているがケアに追われ支援出来ない事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めを希望されている利用者様には定期的に近くの理容院を利用して頂いている。外出の際口紅を塗って頂いたり、身だしなみを整え気分転換して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状況に応じて調理準備(包丁にカットなど)盛り付け、食器拭き、食器かたづけ等一緒にして頂いている。食事についてはお一人お一人の好み、形態について対応できるように心掛けている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様が食べ易い食材を選んでいるが、刻んだり、トロミを付けたり摂取し易いようにしている。活動記録に摂取量を記録し情報を共有している。水分摂取が少ない方には好きな飲み物を提供し積極的に水分摂取して頂くようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをして頂き、困難な方は介助にてスタッフがやっている。希望者は月に一回歯科の訪問診療を受診して頂き口腔衛生をして頂いている。		

まきグループホーム(2階フロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ボードに排泄記録を記入し、個々の排泄リズムを把握し可能な限りトイレで排泄できるようにしている。紙パンツから布パンツに日中は履き替えて頂いている。下衣の上げ下げはできるだけ自身でお願いしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給はこまめに行い、排便調整の為に起床時牛乳を飲んで頂いている。食事時は食物繊維を多く取って頂いたり果物やヨーグルトを提供している。体操をしたり廊下歩行等運動も併用して行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴回数は3日に1回の実施が現状であるが汚染等があればその限りではない。入浴時間やお湯の温度についてはご本人の要望にお応えするようにしている。ホテルのお風呂にも出かけて頂き大変喜ばれた		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	少しずつ消灯して眠れる雰囲気作りをしたり、眠れない方へは、飲み物を提供したり、テレビを見て頂いたり、スタッフと談話したりして過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋は、各利用者の個人ファイルの先頭に綴っている。薬が変われば管理日誌の特記事項に記入し申し送りをし、状態に変化がないか観察している。薬ボードに貼り、服薬時には声を出し氏名、日付、服薬時記を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に役割を分担し全員に毎日楽しくお手伝いをして頂き達成感を持って頂けるよう支援している。お手伝いが困難な方には、スタッフと談話したりテレビやビデオ、雑誌を楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	以前は近くのスーパーに毎日お買い物と一緒に掛けて頂いていたがそのスーパーが閉店となり毎日の外出(交替)が困難となった。近くのコンビニや施設内の庭に出かけて頂き外気に触れる機会を作っている。外食の機会を多く作るようにした		

まきグループホーム(2階フロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望商品の購入については家族様の了解を頂き職員が買い物代行をする事がある。お財布をご自身で管理されている方には、お買物時はご本人にお支払いをして頂き少し離れて職員が見守りをしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを、利用者様に宛名やご自分の名前だけでも書いて頂けるよう見本を作成し見守りしながら書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の季節を感じて頂けるように、お正月、節分、お雛祭り等共有部分の飾り付けはレク委員を中心に手作りで実施している。室温、湿度に注意し冬期は加湿器を使用している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性などを様子観察して座席の位置を考えたり、中の良い利用者同士テレビやビデオを見て頂くようソファを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御自身の使用されていた家具や家族様の写真などをお部屋に飾っている。使い慣れた寝具も使用して頂いている方もおられる。馴染みのものがある事で安心できる環境作りに取り組んでいる		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせて、ベットの位置を変えたり、過去に転倒が見られた方は居室トイレ洗面台、居室の棚のコーナーにクッションをしている。		